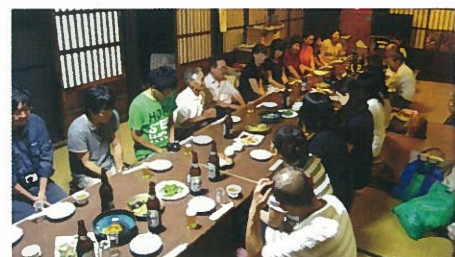


都市住民・企業・大学・地域住民の連携で 茅場完全自給を目指しています。

中日本高速道路（NEXCO中日本）と越中五箇山菅沼集落保存顕彰会との間で、地域の環境整備活動等を取り組む協定を締結し、茅場の再生・活用に関する取組みを行っています。また、筑波大学、富山県立大学、大東文化大学などの学生さんと地域住民が一緒になって作業をしています。



NEXCO中日本との協定調印式(H24年9月)



地域住民と大学生の交流



都市部へのPR活動



都市住民と地域住民のワークショップ



企業とのCSR活動



古茅マルチを使ったかぼちゃ栽培



在来種の赤かぶの種まき

茅活動



下草刈り作業(6~9月)



茅刈り作業
(10月下旬~11月上旬)



茅雪囲い作業
(10月下旬~11月上旬)



茅株植え作業(11月)

「合掌の森」の恵みの商品開発。

五箇山在来種の赤カブ、長年合掌造りの屋根材として風雪に耐えてきた古茅、茅場を支える森林の樹…五箇山ならではの『合掌の森』の恵み。



合掌の黒米



古茅入培養土



赤カブ茅ポット

商品の売上げの一部は、「茅場=合掌の森」の保全活動に充てられます。



「合掌の森」は、合掌造りの材料の森であり、産業の森、文化の森、掌(てのひら)を合わせてできた「感謝の森」です。



古き良き日本の田舎を残したい。
世界遺産「五箇山」は日本の田舎の代表です。



五箇山は、平成7年に白川郷とともに世界遺産として登録されました。単に、景観の美しさだけではなく、田畑や雪持林(ゆきもちりん)と呼ばれる防雪林、合掌の材料となる茅場といった山村集落を取り巻く環境の素晴らしさが評価されています。しかしながら、過疎・高齢化にともない、住民の力だけでは、合掌の森を維持していくことが困難になりつつあります。そこで立ち上がったのが、合掌の森プロジェクトです。

- 「合掌の森」は………
- 材料の森 (茅・柱・チョウナ梁など)
 - 産業の森 (楮・桑・炭焼き) ● 文化の森 (古道・こきりこの竹など)
 - 感謝の森、祈りの森、信仰の森 (合掌:掌“てのひら”を合わせる)

世界遺産を守ることは「合掌の森」を守ること。

合掌造りの茅葺き屋根の材料となる「茅」は、「茅場」と言われる山の斜面で育てられ、秋の3週間で終わる茅刈りにより確保されます。しかし、過疎・高齢化を背景に人手や資金が足りないことから、「茅場」の保全が十分にできず、年間3万束必要な茅の約半分が不足しています。合掌造りを守るということは、五箇山の「茅場=合掌の森」を守ることでもあるのです。



「合掌の森プロジェクト」は、世界遺産の合掌屋根に使用する茅場再生を主目的とし、茅堆肥を使用した農産物のブランド化、茅の活用、茅場再生ツーリズム等の実践により、茅場再生に向けた支援の仕組みを確立するものです。

1 合掌の森(合掌造りの材料の森)の保全

屋根(茅)、障子(楮)、柱(栗)、柱を縛る紐(まんさく)など



2 茅の活用(合掌造りの屋根)



合掌の森 PROJECT

For people's wish



合掌造りは、人と自然が調和しながら
生きることの大切さを教えてくれます。
私たちは、そのメッセージを多くの人に届け、
次の世代へ繋いでいくことを
目的に活動しています。

3 茅を使った特産品・土産品・加工品などの商品開発

古茅入和紙名刺



合掌の森プロジェクト活動に賛同していただける商品や、趣旨にあった商品を増やし、合掌の森商品のブランド化を目指しています。



茅入野菜の加工品

古茅入培養土

茅の活用(野菜づくり)

茅入堆肥や茅マルチで育てた農作物



合掌の森プロジェクトの趣旨にあった農作物のブランド化を目指しています。

世界遺産「五箇山」を守るため、茅を使って育てました。

五箇山ぼくら

Gokayama-abóbola



カヤバを増やすぞー



企業 小・中・高 大学

研修・修学旅行

CSR・CSV・研究・開発

4 地域社会

活動支援

コーリャク隊(仲間・賛同者)を増やして合掌の森の保全活動に参加してもらおう!!

外国人客

応援団やファンづくり

都市住民

〈お問い合わせ〉
合掌の森再生協議会事務局
〒939-1973 富山県南砺市菅沼 503
TEL(0763)77-1330
E-mail info@gassyou-mori.jp
HP http://www.gassyou-mori.jp

